

週日の説教

金 大烈 神父 2011年8月2日(火)

《否定的な感情にならないために ～先ず傷を治しましょう～》

今日は、おもに女性向けの話になると思います。

皆様は、ご自分のことを考えてみて、ねたみ、嫉妬心が多い方だと思われませんか。少ない方だと思われませんか。

面白い作り話を紹介します。アダムの妻の名前はエバでした。エバは、アダムのあばら骨からつくられました。エバは最初の女性だったので、自分よりきれいな女性がいるはずもないし、ねたみを感じる必要もありませんでした。しかし、彼女も強くねたみを感じていたそうです。真夜中、夫のアダムが寝てしまうと、毎晩あばら骨の数を数えたそうです。もう一本別のあばら骨が無くなっていて、別の女の人がつくられているのではないかと心配したからです。(笑い)

人間は、誰かと比較しなければ生きていけない生き物です。だから、いつもねたむ心や、劣等感を持っています。自信がある人はねたみません。それははっきり言えます。少なくとも、自分自身に対して自信があれば、その人はねたみをあまり感じないでしょう。しかし、いつも人と比べて生きるから、相対的に自分より優れたものが現れます。それでねたみや猜忌^{さいき}を感じ、更に、怒りにまで進んでしまうのです。そして、人間関係が滅茶苦茶になります。純粋な気持で近づいてくる人の心を素直に受け入れられなくなります。「なぜこの人は、このような優しさを見せるのか。」とってしまいます。それは、私たちの痛みかもしれません。

今日の福音(マタイ 15・1 - 2, 10 - 14)で、イエス様が、「口から入るものは人を汚さず、口から出て来るものが人を汚す^{けが}。(口から入るものは汚くない。口から出るものが人を汚す^{よご}。)」とおっしゃいました。人を汚してしまうような否定的な感情が起こる原因は、いろいろあります。しかし一言で言えば、『劣等感』が原因になっています。では、なぜ人間は劣等感を持つのでしょうか。『劣等感』を別の言葉で言い表せば、『傷』になります。もし皆様が、何でもないようなことにねたみや嫉妬、猜忌^{さいき}を感じられるとしたら、赤ちゃんの時についたのか、大人になりながらついたのか分かりませんが、『傷』がついているのです。先ず、それを治さなければなりません。なぜならば、そのような生き方では死ぬまで幸せを感じられないからです。ですからイエス様は、「私たちの中から出るもので、否定的なものがあれば、それに気をつけなければならない。」とおっしゃったのです。

皆様、ちょっとご自分を広く考えてみてください。「私は神様から愛されている大きな存在で、神様から与られたいろいろな使命を果たせるのは私しかいない。そのような私が、隣の人と自分を比べてみる必要はない。」そういう気持ちで自分のことを見られれば、関係も改善されます。

どこかのグループに入った時に嫌な目で見える人がいたら、なぜそのような目を向けられるのか、よく考えてみてください。そして、その嫌な目を向けている人を批判するより、どのような否定的なこ

とが自分から出されて、その結果その人がそのような反応を見せているのかを考えてみてください。
こういう簡単なこと、しかし一番難しいこと、そういうことから解放されるように頑張りましょう。

ありがとうございました。